

豊かに対話する子どもの育成

～ フリートーク・一人学びを基盤とした国語科授業を通して ～

1 はじめに

私は、新聞記事の読み比べの学習で色々なことを学びました。

一つ目は、書き手の意図を見つける方法です。以前は、文章の「事実」と「意見」の見分け方が分からないこともあったけれど、この授業でしっかりと身につけることができました。

二つ目は、大きな声でしっかり発言することです。前は「まちがっているかな」と不安に思い、なかなか手をあげることができなかつたけれど、勇気を出してたくさん発言をすることができました。

6年生になっても、この国語の授業で学んだことをずっと生かしていきたいです。



本校は、10月に開催された「平成25年度 生きる力を育む実践的調査研究事業」の授業づくり研修会（防府地域）において、第5学年国語科「新聞記事を読み比べよう」の授業を公開した。この文章は、本単元の学習の終末に子どもが書いた感想文である。

新聞記事を読み比べる活動を通して、書き手の意図を読み取ることに自信をもつことができたこと、また、自分の考えをもち、進んで仲間に伝えていこうとする意欲が高まっていること、さらに、身に付けた学び方をこれからの学習の中で活用していきたいという思いが膨らんでいることを感じ取ることができるのではないだろうか。

本単元は、本校の活用力向上につながるよう、課題の分析と学力向上プランを踏まえ実践したものである。以下、単元の構想や授業の実際について述べていきたい。

2 本校の課題解決に向けて

本年度、本校は「豊かに対話する子どもの育成 ～フリートーク・一人学びを基盤とした国語科授業を通して～」を研究主題に掲げ、校内研修に取り組んでいる。

本校の学力状況としては、全国学力・学習状況調査では国語A・Bともに全国及び県平均を上回ってはいるが、次の点を全校的な課題とし、全校体制で授業改善を進めている。

- ① 「進んで発表する」「進んで調べる」などの主体的に学ぶ態度
- ② 目的に応じて必要となる情報を取り出し、それらに関係付けて読むこと
- ③ 条件に従って自分の考えを書くこと

そこで、第5学年では、学力向上プランに「一人学びの時間の確保と話す・聞く活動につながる書く活動を設定する」「国語辞典を日常的に手元に置き活用する」「様々な形態での話し合い活動を設定するとともに、友達のよさを見付けて取り入れる指導を継続する」を位置付け、指導方法の工夫・改善に取り組んでいる。次項に示したとおり、これらの手だてを生かした学習指導案を構想し、課題解決に向けて授業実践に取り組んだ。

研究主題

豊かに対話する子どもの育成

～ フリートーク・一人学びを基盤とした国語科授業を通して ～

1 単元名 新聞記事を読み比べよう(東京書籍5年上)

2 めざす児童の姿

(1) 身に付けさせたい力

学習指導要領第5学年及び6学年「C読むこと」(2)内容①指導事項には、教材との対話にかかわる事項として、イ「目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫すること」、ウ「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながらかんじたりすること」が示されている。

高学年になると、様々な学習の中で、調べるために資料を集めて読むなど、読む目的も多様化してくる。また、調べる範囲も本を中心とした資料から、新聞やインターネットなどの多様なメディアへと広がっていく時期でもある。読む目的に応じて、「比べて読む」などの効果的な読み方をしながら情報を収集し、判断することができるようにしていく必要がある。

そこで、本単元では、次の力を身に付けさせていくようにしたい。

○ 新聞記事の読み比べを通して、書き手の意図を読み取る力

(2) 「身に付けさせたい力」に関する児童の実態

子どもたちは、これまで「生き物は円柱形」などの説明文の学習の中で、文章の内容や構成、その表現の意図を考えながら、筆者の主張である要旨を考える経験をしてきている。

しかし、文や文章の書き表し方には情報の送り手の意図があることを意識しながら正確に読み取る力は十分ではない。また、書き手の意図についての友達の考えと自分の考えを比較して話し合いながら、自分の考えを広げたり深めたりして発言することができる児童もまだ少数である。

3 教材観

本単元では、教材文「新聞記事を読み比べよう」(東京書籍5年上)を取り上げる。前半は、新聞記事の編集の仕方、記事の書き方、写真の役割などについて説明がされており、後半は、読み比べをするための2つの新聞記事が掲載されている。いずれも多摩川を遡上するアユが話題であり、見出し、リード、4つの段落で構成された本文、写真のそれぞれが比較しやすい内容や表現になっており、読み比べに適した教材であると言える。また、記事とのつながりをとらえやすい写真が使用されており、言葉と非言語資料を関連付けながら書き手の意図を読み取る学習を経験することもできるよさがあると考えられる。

4 言語活動の位置付け

そこで、本単元では、単元を貫く言語活動として「新聞記事を読み比べ、書き手の意図について話し合う」という活動を位置付ける。このことは、学習指導要領第5学年及び6学年「C読むこと」の言語活動例に示された、ウ「編集の仕方や記事の書き方に注意して新聞を読む言語活動」に対応するものである。

複数の文章を比較しながら読むことで、それぞれの文章の書き手の意図はより一層明確になる。このことが読み比べることのよさである。効果的な読み方を取り入れながら「書き手の意図を読み取る力」を身に付けさせるために、2つの新聞記事を読み比べ、その結果から導き出された書き手の意図について話し合う活動を位置付けたいと考えた。

そのために、まず第1次では、「新聞記事を読み比べて、書き手の意図を考えよう」という単元の学習課題を設定し、記事の中心となる「見出し」、内容のまとめである「リード」、5W1Hを押さえながら内容を詳しく伝える「本文」、写真や図に添えられた短い説明文であるキャプションを含めた「写真」の役割など、新聞記事の特徴を「新聞記事の読み比べに活用する」という読みのめあてを明確にして、教材文から進んで読み取っていくようにしたい。

そして、第2次では、教材文から得た新聞記事を読む視点を活用しながら、2つの新聞記事の見出し、リード、写真、本文をそれぞれ比較する活動を設定する。そこから明らかにした共通点と相違点をもとに、それぞれの書き手の意図について考える話し合い活動を展開したい。その際、一人学びの場を設定し、それぞれの相違点や書き手の意図についての自分の考えをまとめる時間を保障した上で、話し合い活動に進むようにしたい。

第3次では、読み比べの結果を交流しながら、新聞の利点や特徴を自分の言葉でまとめるようにしたい。

5 単元目標

- 同じ出来事を扱った新聞記事を見出し、リード、本文、写真を比較しながら読み比べることにより、それぞれの書き手の意図を読み取ることができるようにする。

6 評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・新聞記事には意図があることを理解し、進んで書き手の意図を読み取ろうとしている。	・見出しや写真に気を付けて2つの記事を読み比べ、それぞれの記事の内容や書き手の意図の違いを読み取っている。	・文や文章は、書き手の意図に応じた書き方や構成がなされていることを理解している。

7 指導計画（全6時間）

次	時間	学 習 活 動
1	1	・「新聞記事を読み比べて、書き手の意図を考えよう」という学習課題を設定し、単元の学習計画を立てる。 ・教材文から新聞記事の書き方や写真の役割を理解する。
2	4	・見出し、リード、写真を読み比べ、共通点や相違点を考える。(2時間) ・本文を読み比べ、共通点や相違点を考える。 ・ <u>見つけた共通点や相違点から、書き手の意図を考える。</u> (本時:5/6)
3	1	・これまでの学習を振り返り、新聞の特徴や利点、書き手の意図を読み取るポイントをまとめ、これからの自分と新聞のかかわり方について考える。

8 本時案 (第2次: 5/6)

(1) 主眼

A社とB社の新聞記事の見出し、リード、本文、写真の相違点をもとに話し合い、それぞれの書き手の意図を読み取ることができるようにする。

(2) 準備物 書き込みノート、拡大したA社・B社の新聞記事、個々の考えを整理した座席表

(3) 展開

学習活動・内容	子どもの意識の流れ	支援(○)と評価(●)
<p>1 本時の学習課題を確認する。(5分)</p>	<p>・A社の写真には水しぶきが写っている。「多摩川に生きのいいアユがいるよ」と伝えたいのかな。</p>	<p>○単元の学習計画をもとに、本時の学習の見通しをもつことができるようにする。</p>
<p>A社とB社の記事の書き手の意図を考えよう。</p>		
<p>2 A社とB社の記事の相違点から、書き手の意図について話し合う。(25分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2つの文章の読み比べ ・根拠に基づいた考えの交流 ・書き手の意図 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>(A社)アユの若々しさや美しさを中心に、初夏の訪れを生き生きと伝えたい。 (B社)市民の努力により、多摩川に自然がよみがえったことの喜びを伝えたい。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・B社の小見出しは「よみがえった多摩川の自然」、リードに「よみがえった」と書いてあるから、自然環境の大切さを伝えたいと思うよ。 ・それぞれの本文の中で、多摩川のアユのことを表している一番大切な言葉は何だろう。 ・A社の「風物詩」は、その「季節らしさ」を表しているから、本文の「初夏の風がにつかわしい光景だ」につながっているね。 ・それに、B社の「象徴的存在」が指す言葉は、「地域住民や行政の努力で、多摩川は以前のすがたにもどりつつある」ことだから、「人々の努力」で多摩川がよみがえったことが伝えたいメッセージではないかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ○一人一人の書き手の意図についての考えを多様に引き出すことができるよう、個々の考えを座席表に整理しておく。 ○写真を根拠にした考えが出た際は、そのことが分かる言葉を探すよう促し、写真と文章の結び付きに着目できるようにする。 ○本文中のキーワードとなる「多摩川の風物詩」(A社)、「象徴的存在」(B社)の意味を確かめ、記事ではどの部分を指すのかを問うことで、書き手の意図を本文の表現と結び付けながら考えることができるようにする。 ○「若アユ」(A社)と「アユ」(B社)、「自然がもどり」(A社)と「よみがえった」(B社)など、同じ事柄でも表現の違いがある理由を問いかけ、考えをさらに深めさせたい。
<p>3 読み取った書き手の意図をまとめて書く。(10分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・条件に沿った考えの整理 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの記事の書き手の意図を「初夏が訪れた」(A社)、「自然がよみがえった」(B社)という言葉を使ってまとめるぞ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○書き手の意図の違いが記事の書かれ方に表れていることを板書をもとに確認した上で、A社とB社の書き手の意図を50字以内でまとめるようにする。
<p>4 本時の学習を振り返る。(5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仲間との学び合いのよさ 	<ul style="list-style-type: none"> ・書いたことと話し合う前の一人学びのときの考えとを比べてみると、写真から意図をまとめていたことに気付いたよ。写真だけではなく、写真と本文を結び付けながら意図を考えていくことが大切だと分かったよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ●A社とB社の記事の書き表し方の違いをもとに、書き手の意図を読み取ることができたか。 ○話し合いを通して書き手の意図についての考えが変容した児童を取り上げ、価値付けたい。

4 授業の実際

(1) A社とB社の新聞記事を読み比べる

第2次1～3時に「見出し→リード→写真→本文」の順で4つの読み比べ活動を行った。その際、子どもたちが明確な読みの目的をもち、自ら進んで記事の読み比べに取り組むことができるよう、次の3点を特に重視した。

① 読み比べを促すワークシートの工夫

記事そのものを比較するのではなく、見出し、リード、写真、本文ごとに、A社とB社を左右対称に配置し、中央部に気付きを書き込む形式のワークシートを用意し、両社の共通点と相違点に着目しやすくした。

② 具体的な読み比べの仕方の指導

見出し、リード、本文の読み比べの活動の始めには、図1の「読み比べガイド」をもとに、共通点には青色、書き手の意図を読み取る上で大切だと思う相違点には赤色の線を引き、赤線を引いた言葉から書き手の意図に結びつく気付きを書き込むようにした。

読み比べガイド

1 意味調べ
 ☆ 意味の分からない言葉は、国語辞典で調べ、矢印を引いて書きこんでおきましょう。

2 記事の読み比べ
 ☆ 「見出し」「リード」「写真」「本文」の順に、読み比べをしていきましょう。

読み比べの仕方

① 同じところ（共通点）を見つけて、青色で線を引く。
 ☆ ちがうところ（そうい点）を見つけて、青色で線を引く。
 ☆ その中で、書き手の意図を見つげるために、「大切だと思う言葉」を選んで、赤色で線を引く。
 ☆ 意図を違った言葉から書き手のどんなメッセージを感じるか、また、書き手はなぜその言葉を使ったのかを考えて思ったことを書きこむ。

図1 読み比べガイド

また、リードや本文の読み比べでは、赤線を引いた部分を事実と意見に区別しながら読むように促し、「多摩川の風物詩」(A社)、「アユはその象徴的な存在」(B社)など、書き手の意図を読み取る手がかりとなる言葉に着目しやすくした。

さらに、写真の読み比べでは、まず、それぞれの写真に「何が」「どのように」写っているかを発表させ、それらの部分にどのような書き手の意図が隠されているかを全体で推測した上で、個々に相違点を赤色で丸囲みするようにした。そして、その部分と見出し、リード、本文の言葉とのつながりを考えながら、気付きを書き込んでいくようにした。

③ 一人学びで見つけたことを交流する班や全体での話し合い活動の設定

4つの読み比べの活動ごとに、一人学びで見つけたことを全体で共有する話し合い活動を設定するようにした。そうすることで、自分の考えに自信をもつ、自分が気付かなかった視点を取り入れる、自分とは異なる考えに気付き意見をもつなどの効果が生まれ、書き手の意図を考える学習の充実につながると考えたからである。また、書き込みが停滞した場合は、数分間、班で情報交換をする場を設定し、気付きが一層膨らむよう支援した。

(2) 読み比べをもとに、書き手の意図を考える (※ 公開授業)

62S A社: すこい、きお、でアユがのぼってきた…レンズに水し、書きがちっている写真 B社: 人々の努力が昔のように自然がよみがえってきたこと…「本気で努力、最後のしめくくりでよみがえった」	72K A社: 初夏のおとずれを感じられるアユが帰ってきた…本文も風物詩 B社: 多摩川がみんなががんばったからよみがえった…「多摩川がたくさん出ている」強調	82S A社: 江戸前アユの良さを上げてはね上がるほど生きがよい…大見出しや本文でし書き B社: 地元民や行政の努力で多摩川がよみがえったこと…「生態も女性も入っていた」
61K A社: さかのぼるアユが200万匹をえたこと…江戸前アユと書いてある B社: 多摩川がよみがえってアユがたくさんさかのぼる…「多摩川が多い」	71S A社: アユが元気、生きがよい、迫力があること…レンズに水し、書き、大見出しにもし書き B社: 多摩川は地元民や関係者にとって大事…「B社は「多摩川が」10以上、写しにも「人」	81K A社: 江戸前アユの良さを上げてはね上がる…し書きをあげている写真や見出し B社: 多摩川の自然がもどったこと…人々が生き物とりをしたり、川で遊んだり(写真や本文)

図2 座席表(※一部抜粋)

第2次4時では、子どもたちが主体的に話し合い活動をつくり上げていくことができるようにしたいと考えた。そこで、個々の考えを出し合う場面では相互指名とし、読みを深める場面では意図的指名により発言を引き出すようにした。

そのために、図2にある座席表に全員の考えを整理して把握しておくようにした。

A社については、全体的にアユの元気のよさ、若々しさを捉えることはよくできていたが、アユ

の遡上と「初夏の季節感」を結び付けて考えることができていた子どもは一部であった。そこで、意図的指名により、本文の「多摩川の風物詩」を根拠に初夏の

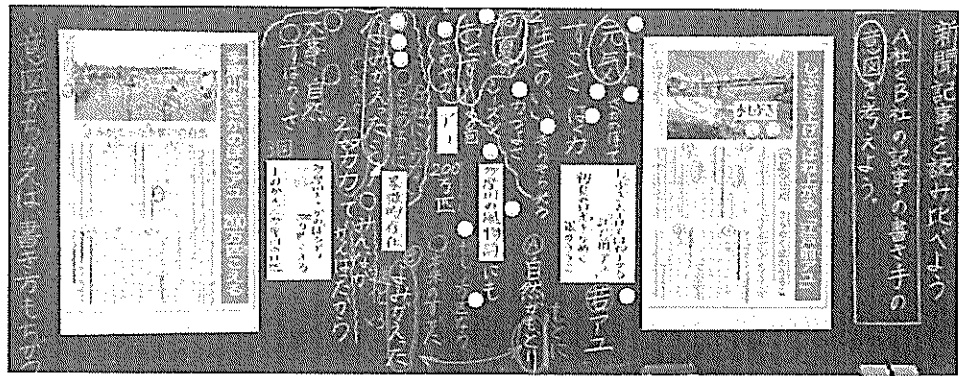


図3 本時の板書

さわやかさの強調に気付いている子どもの考えを引き出し、全体に広げるようにした。

B社については、多くの子どもが人々の努力により多摩川が「よみがえった」ことを書き手の意図として読み取ることができていた。そこで、このことを生かして読み比べをさらに深めていけるよう、A社の本文「(自然が) もどり」とB社の「よみがえった」を対比的に提示し、この言葉を選んだそれぞれの書き手の意図を問いかけ、A社とB社の書き手の意図の違いが記事の書かれ方にも表れていることに気付くことができるようにした。

そして、これらの話し合い活動をもとに、A社、B社の記事の書き手の意図を50字以内でまとめるとともに、「誰の」「どのような発言を」聞いたことで自分の考えがどのように深まったか、仲間との学び合いの成果を自覚的に振り返ることができるようにした。

5 実践の考察

(1) 授業づくり研修会の研究協議における主な意見

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを活用した個別指導により、読み比べの方法がよく身に付いていると感じた。 ・一人学びが充実しており、全員が自分の考えをもって話し合いにのぞむことができていた。 ・課題に対して自信をもって意欲的に発言する姿が見られた。 ・座席表の見取りが発言をつなぐ際に生かされていた。 ・効果的な話し合いの仕方や学習規律などが定着している。 ・50字でまとめるという条件が思考の整理を促し、書く力の向上につながっていると感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・記事のキーワードがさらに際立つよう、板書の構成や色使いを工夫するとよい。 ・「もどり」と「よみがえった」を対比した場面では、その違いがより明確になる問いかけの工夫が必要であると感じた。 ・まとめの文末は「～を伝えたい」という言葉で統一するとよい。

(2) 実践を通しての考察

- 本単元を通して、「進んで読み比べに取り組む」「進んで話し合い活動に参加する」など、活用力の基盤となる主体的に学ぶ姿が多く見られるようになった。
- 読み比べの活動は、「書き手の意図を見つける」という読みの目的をもち、A社とB社の記事を関連付けながら共通点や相違点を見出し、それらを意味付けていく活動であり、書く力や読む力を伸ばす上で効果的であった。本単元終了後に実施した県学力定着状況確認問題では、県平均を100とした場合、「話す・聞く」：100、「書く」：126、「読む」：110、「言語」104と、1学期末評価問題の結果と比べ、いずれも大きな伸びが見られた。
- 本単元は、全校の協力体制のもと、第5学年3学級の担任と学力向上推進教員の協働的实践として取り組んだものである。本校の課題解決に向けて、授業づくりのアイデアを出し合いながら共に実践したことで、互いの授業力の向上にもつながった。